

心理学総論特論のご指導を受けて

大学院心理学研究科長
公認心理師養成機関連盟会長
日本臨床心理士会理事
日本臨床動作学会理事長
臨床心理学博士 鶴 光代

今回は、総長先生が、36歳の時に専門学校を創られたこと、そして37歳の時に、教育学の学者になろうと思って、フォーダム大学大学院に入学され、修士課程を1年間で修了され、博士課程の4年間で博士号を取られたことを伺った。大学院在学中は、休むことなく朝から晩まで勉強に励まれ、統計学に関しては、1年間、死ぬ気で勉強されたとのことであった。30代半ばでの博士号を取るための留学といった、常人では為しがたいすごい人生の話聞き感動した。

こうしたご体験が、現在の教育理念の基盤になっていることを理解した。つまり、ある目的をもってその実現に必死で頑張ることの大事さということであろう。総長先生は、今日の社会では、一流といわれているよい大学に入ることが人生の一番の目的になっているが、しかし、大事なことは、一流ではなくとも大学に入ってから、目的をもってそれに向かって必死で努力することであり、それによって人はいくらでも賢くなっていくと説かれた。

学生の伸びる力への信頼があつてのことであり、その力を伸ばす方法が、これまでのご指導にあつた授業メソッドであると理解した。学生が持てる力を伸ばし、賢くなっていくために、教員として努力したいと思った。

今回の研修には、臨床心理士試験問題の一つの特徴である「事例問題」が取り上げられた。事例問題は、実際の心理療法場面で起こる事象について、適切に理解ができているかどうかを問う問題であるが、この受験勉強の仕方も、問題と答えと解説を読んで理解し、それらを暗記することであった。教員による解説は無しに授業が進んでいったが、その結果は、学生全員が確認テストで満点を取るというものであった。Zoom授業の画面越しに、満点を取るといった明確な目的をもって学生が真剣に授業に臨んでいる様子うかがえ、授業をされている大島先生の教え方も大変スムーズで、かつ迫力があつた。すごい授業だと感じた。学生はやりがい感を持ったに違いなく、自分に自信を持てただろうと思った。

総長先生がフォーダム大学で学んだという、できる人ほど、人に対して平易な言葉で分かりやすく話すというお話にも、なるほどと納得した。臨床心理士は、職務上、クライアントやその関係者とのコミュニケーションを最も大事にする。相手にこちらの考えや思いを伝える能力が必要であるが、その基本が、平易な言葉で分かりやすく話すということだと思った。この研修会で学んだことを生かして、学生教育に取り組みたいと思っている。